

# 『ころざし—舎密を愛した男—』が完成

2011(平成23)年3月

2010(平成22)年、日本薬学の開祖 長井長義博士を描いた映画『ころざし—舎密(せいみ)を愛した男—』が製作された。この映画は、1845(明治22)年に徳島市の藩医の長男として生まれ、その後ドイツ留学を経て、江戸から明治という激動の時代に日本の薬学の発展と、徳島大学薬学部の設立に力を注がれた同博士の生き様を現代の若者に伝えることで、世界に羽ばたく若き薬学者が育って欲しいとの願いを込めて製作された。またこれを機に、薬学部インフォメーションプラザを改装、2011(平成23)年3月には香川征学長(当時)、渋谷雅之



徳島大学長井長義映像評伝実行委員会委員長のほか多数の関係者を集めて徳島大学薬学部玄関ホールにて同博士の胸像除幕式が盛大に開催され、それに引き続いて長井記念ホールにて映画の完成試写会が行われた。

薬学部において6年制教育が開始された2006(平成18)年度以降、2010(平成22)年度には6年制薬学科第1期生の病院・薬局実務実習が開始され、模擬薬局も設置された。4年制創製薬科学科では、卒業生の多くが改組された博士前期課程創製科学専攻(定員35名)に進学。この年、両学科共通の教育理念として「インタラクティブ YAKUGAKUJIN(薬学が関係する諸分野の連携を基盤に、自らの活躍の場を積極的に開拓できる能力に溢れた人材)」の育成を掲げた。

徳島大学薬学部は、長井長義博士の「薬の創製(創薬)をめざす」という進言の上に立脚し、質の高い創薬教育を行っている。

新入生のオリエンテーションでは、映画『ころざし—舎密(せいみ)を愛した男—』を上映し、薬の創製を伝統とする本学部における学生の研究マインドの醸成を促す指導を行っている。



GALLERIA SHINKURA 新蔵

長井長義(1845-1929)は、化学という概念すら知られていなかった時代に、日本の化学の道を切り拓いて、薬学の礎を築いた「日本薬学の父」とも呼ばれている徳島の偉人。その功績を称えて平成23年には徳島大学長井長義映像評伝実行委員会により映画『ころざし—舎密(せいみ)を愛した男—』が製作された。今回の企画展示は「人間長井長義」をコンセプトにこの映画の写真も多く展示している。

ここで言う「ころざし」とは「自己の目標」の意味ではなく、人々の幸福に尽くす崇高な熱い思いである。この徳島の偉人から我々は「ころざし」を単に教わるのではなく、「ころざし」を積極的に学び取って、新しい未来の道を切り拓くことをめざす展示会である。

第5回特別展

# 徳島の偉人 長井長義 展示会

展示期間 平成25年4月22日[月]~8月30日[金]

場所 徳島大学 ガレリア新蔵展示室【日亜会館1F】

映画『ころざし』上映会と山田和広監督講演会

日時 平成25年6月3日[月] 16時30分~19時(映画上映時間は1時間48分)

場所 徳島大学 日亜会館2階

問い合わせ: 徳島大学総務部総務課文書・広報係 770-8501 徳島市新蔵町2丁目24番地 Tel.088-656-7021